

資料・統計

2008年中央手術部手術統計

Annual Report of Operations in 2008

新潟県立がんセンター新潟病院
中央手術部

1. 外科		非上皮性腫瘍	0
胃	352	食道癌	36
胃癌		右開胸	22
Staging laparoscopy	38	胸腔鏡下	8
切除		左開胸	0
全摘	56	開腹	5
残胃全摘	14	咽喉食道全摘	1
噴門側切除	11	遊離空腸移植	0
幽門側切除	139	食道拔去	0
PPG, 分節切除	31		
臍頭十二指腸切除術	0	肝胆膵	190
SSR	8	肝腫瘍	
部分切除	6	肝細胞癌	32
非切除		肝内胆管癌	6
単開腹	1	転移性肝癌	7
バイパス	1	その他肝腫瘍	3
その他	0	胆道癌	
再発		十二指腸乳頭部癌	4
肝転移切除	1	胆嚢癌	8
リンパ節郭清	4	胆管癌	14
局所切除	0	膵臓疾患	
卵巣摘出	2	膵臓癌	35
人工肛門	6	IPMN	8
腸切除	4	その他膵臓疾患	7
バイパス	5	その他	
イレウス		十二指腸癌	2
腸切除	3	脾腫瘍	1
バイパス	0	小腸癌	1
癒着剥離	8	胆石症・胆嚢ポリープ	19
人工肛門造設	0	汎発性腹膜炎	2
胃瘻・空腸瘻	1	NHL	5
非上皮性腫瘍		癌の再発	5
GIST	7	腸閉塞	4
悪性リンパ腫	2	その他	27
その他	0		190
潰瘍	1	術式	
その他	3	臍頭十二指腸切除術	33
		肝切除	37
食道	36	肝膵同時切除	3
良性腫瘍	0	胆嚢癌根治術	5
		膵体尾部切除術	10

胆嚢切除術	19
肝外胆管切除術	1
ラジオ波焼灼術	12
PTCD/PTAD	22
その他	48
<hr/>	
結腸, 直腸手術症例	250例
原発	182
結腸悪性	113
右半結腸切除術	46
S状結腸切除術	27
右結腸切除術	8
横行結腸切除術	7
結腸部分切除術	6
左半結腸切除術	5
下行結腸切除術	3
回盲部切除術	3
上行結腸切除術	1
虫垂切除術	0
大腸垂全摘術	2
超低位前方切除術	2
非切除術	3
結腸良性	0
直腸悪性	68
超低位前方切除術	19
低位前方切除術	18
前方切除術	11
直腸切断術	8
経肛門的切除術	8
ハルトマン手術	0
骨盤内蔵全摘術	0
非切除術	4
直腸良性	1
低位前方切除術	1
再発・転移	28
肝切除術	20
拡大右半結腸切除術	1
拡大左半結腸切除術	1
直腸切断術	1
ハルトマン手術	1
回腸結腸部分切除術	1
両側単径リンパ節郭清術	1
人工肛門造設術	1
非切除術	1
肝転移	29 (上記原発再発症例に含まれる)
異時	20 (上記再発症例に含まれる)
同時	9 (上記原発症例に含まれる)
その他の手術	40 (内緊急手術 5)
他科癌・他癌	16
人工肛門造設術	3

低位前方切除術	3
肝部分切除術	2
骨盤内腫瘍摘出術	1
横行結腸切除術	1
回腸部分切除術	1
大動脈周囲リンパ節郭清	1
止血術	1
非切除術	1
その他	2
人工肛門閉鎖術	15
人工肛門造設術	3
洗浄ドレナージ人工肛門造設術	3
直腸狭窄拡張術	1
腹壁癒痕ヘルニア	1
腸閉塞手術	1
<hr/>	
乳癌	292
外来手術	
乳腺	47
入院手術	
乳腺	
良性	15
乳輪下膿瘍	0
乳癌	292
Auchincloss	45
Mastectomy + SLNB	17
Simple mastectomy	6
Lumpectomy + Ax	57
Lumpectomy + SLNB	123
Lumpectomy	44
その他	
局所再発 (リンパ節, 創)	5
温存乳房切除	
断端陽性	8
乳房内再発	23
後出血	1
その他	0

(SLNB:センチネルリンパ節生検, AX²腋窩リンパ節郭清)

2008年の外科手術件数は入院1196件, 外来49件で2007年と比べ入院が69件減少し最近の増加傾向に歯止めがかかった。各臓器別入院手術件数は乳腺344件と36件減少した。消化器では食道36件, 胃352件, 肝胆膵190件, 直腸・結腸250件で食道・結腸直腸の手術件数は一昨年とほぼ同数であったが, 胃癌の手術が若干減少し, 肝胆膵の癌手術が増加した。乳癌手術では77%が乳房温存手術でありここ2-3年は温存率が一定となった。消化器癌では鏡視鏡下の手術が復活し再度行われるようになった。器械の関係で

食道癌・胃癌・結腸直腸癌の手術が各週 1 で可能となったが、今後機器の整備を予定しているためますます増加すると思われる。また結腸直腸グループに丸山先生と乳腺グループに金子先生が常勤医として赴任があり、外科の診療内容がより充実されるものと期待される。

(文責 土屋嘉昭)

2. 呼吸器外科

1. 気管 (支) 疾患	2
気管切開	1
気管支瘻	1
2. 肺疾患	221
2-1 良性肺疾患	5(1)
炎症性肺疾患	2
良性肺腫瘍	3(1)
その他	0
2-2 悪性腫瘍	216
2-2-1 原発性肺癌	195(41)
全摘除	4
肺葉切除	134(38)
区域切除	43(1)
部分切除	11(2)
試験開胸	3
審査開胸	0
生検	0
2-2-2 転移性肺腫瘍	21(8)
結腸直腸癌肺転移	13(6)
骨軟部腫瘍肺転移	2(1)
腎癌転移	3(1)
頭頸部癌転移	0
他	3
3. 縦隔疾患	15
3-1 縦隔腫瘍	15(6)
胸腺腫	7(4)
奇形腫	0
胚細胞性腫瘍	0
神経性腫瘍	1(1)
胸腺癌	1
胸腺カルシノイド	0
嚢腫	1(1)
リンパ腫	1
他	4
3-2 縦隔鏡検査	0
4. 胸膜疾患	3(2)
気胸	1(1)
膿胸	0
胸膜生検	1(1)

胸膜中皮腫	0
他	1
5. 胸壁疾患	1
() : 胸腔鏡手術	

2008年の手術数は242件で、昨年より少し増加した。原発性肺癌手術例は195例で、昨年より20例増加した。最近4年間に、肺癌手術の手術死亡はない。肺癌に対する胸腔鏡併用下肺葉切除(VATS)は、stage I では、ほぼ標準手術化されており、本年は肺葉切除のうち28%を占めた。従来から2cm以下の小型肺癌には、根治を目指した区域切除などの縮小手術を行っているが、今後JCOGによる区域切除と肺葉切除の第Ⅲ相比較試験が開始される予定である。転移性肺腫瘍や縦隔腫瘍はほぼ例年通りであるが、これらの疾患にも胸腔鏡手術は増加している。

(文責 大和 靖)

3. 整形外科

腫瘍性疾患 (良性腫瘍)	150
良性軟部腫瘍	
切除術	112
良性骨腫瘍	
切除または搔爬 + 骨移植	38
悪性軟部腫瘍	28
広範切除	19
切除・生検	9
悪性骨腫瘍	8
広範切除	5
切除・生検	3
脊髄腫瘍	3
転移性腫瘍	10
脊椎生検	3
髄内釘・プレート固定	3
切除	4
非腫瘍性疾患	
股関節疾患	6
人工関節再置換術	2
人工骨頭置換術	3
脱臼整復	1
膝関節疾患	18
人工関節置換術 全置換	12

人工関節置換術 単顆置換	1
人工関節置換術 再置換	4
関節鏡視下半月版切除	1
<hr/>	
肩関節疾患	1
人工肩関節置換術	1
<hr/>	
肘・手関節疾患	24
腱鞘切開	11
手根管開放術	5
滑膜切除	7
神経剥離	1
<hr/>	
足・足関節疾患	3
外反母趾	1
壊疽	2
<hr/>	
その他	18
骨接合術	9
デブリードマン	8
抜釘・異物除去	1
<hr/>	
総合計	269

合計に対する腫瘍性疾患の比率は73.9%で昨年より増加した。腫瘍性疾患のうち良性腫瘍75.4%，悪性腫瘍18.1%，転移性腫瘍5%，脊髄腫瘍，1.5%であった。
(文責 嶋野宏史)

4. 脳神経外科

総手術件数	34
腫瘍摘出術	23
クリッピング術	0
血管内治療	0
頭部外傷	5
その他	7
(脳定位的放射線治療 101)	

コメント：手術件数は少なくなりましたが，入院患者数は増えており，治療の多様性が進んだ為と考えられます。
(文責：吉田誠一)

5. 婦人科

腹式子宮全摘出術 (+付属器摘出術など)	58
子宮筋腫	41
子宮腺筋症	8

子宮頸部異形成	1	
子宮頸癌	0期	4
	I a 1期	1
子宮内膜異型増殖症		1
子宮体癌 0期		1
子宮内膜ポリープ		1
<hr/>		
腔式子宮全摘出術 (子宮筋腫)		2
<hr/>		
準広汎子宮全摘出術		4
子宮頸癌	I a 1期	4
<hr/>		
広汎子宮全摘出術		27
子宮頸癌	I a 2期	1
	I b 1期	13
	I b 2期	7
	II a期	2
	II b期	4
<hr/>		
子宮体癌手術		39
(原則的に子宮全摘出術+両側付属器摘出術+骨盤リンパ節郭清)		
(子宮肉腫を含む)		
子宮体癌	I a期	3
	I b期	23
	I c期	6
	II a期	0
	III a期	5
	III c期	1
	IV b期	1
<hr/>		
悪性卵巣腫瘍手術		55
(原則的に子宮全摘出術+両側付属器摘出術+骨盤リンパ節郭清+大網切除術) (卵管癌を含む)		
卵巣癌	I a期	8
	I c期	15
	II a期	0
	II b期	1
	II c期	5
	III a期	1
	III b期	1
	III c期	21
	IV期	3
<hr/>		
SLO (Second Look Operation)		1
(Secondary Reductive Surgeryを含む)		
卵巣癌		1
<hr/>		
子宮頸部円錐切除術		118
子宮頸部異形成		51
子宮頸癌	0期	55

I a 1期	9
子宮頸癌疑い	3
<hr/>	
LEEP (Loop Electrocautery Excision Procedure)	28
子宮頸部異形成	28
<hr/>	
その他の悪性腫瘍手術	30
腔悪性腫瘍手術	6
外陰悪性腫瘍手術	3
再発癌手術	10
試験開腹術	9
ドレナージ	2
<hr/>	
附属器摘出術 (附属器腫瘍摘出術を含む)	26
<hr/>	
子宮筋腫核出術	29
<hr/>	
子宮脱手術	12
腔式子宮全摘出術+腔壁形成術	10
Le Fort手術	2
<hr/>	
腹腔鏡下手術	31
良性卵巣腫瘍	28
乳癌術後 (両側卵巣摘出術)	1
子宮筋腫	2
<hr/>	
経頸管的切除 (TCR)	13
子宮筋腫	5
子宮内膜ポリープ	8
<hr/>	
子宮内容除去術	6
子宮体癌疑い	3
胞状奇胎	3
<hr/>	
その他	5
外陰良性腫瘍手術	1
腹腔内ポート設置	1
腹膜癒着剥離術	1
腔腫瘍生検	1
外陰コンジローマ蒸散	1
<hr/>	
計	484

2008年の総手術件数は484件であり、前年の454件に比べ若干増加した。316件は悪性腫瘍または関連疾患の手術であり、全体の約2/3を占める。

子宮頸癌では、がん検診の普及とともに浸潤癌罹患率と死亡率が減少するが、わが国では先進国の中で例外的にがん検診受診率が低く、浸潤癌で発見さ

れる症例がまだまだ多い。検診で発見され、異形成(前癌病変)や早期癌の診断で子宮温存手術(子宮頸部円錐切除術, LEEP)された症例数も増加した。しかし、進行癌で広汎子宮全摘出術を施行した症例数も増加した。近年、若年者の子宮頸癌増加が問題となっており、妊孕性温存を希望される症例では術式の選択に苦慮することがある。

子宮体癌手術はやや減少、卵巣癌手術は増加した。社会の高齢化の影響か、外陰・腔腫瘍の手術件数が例年より多かった。外陰癌手術3件、腔癌手術6件を経験した。

良性腫瘍の術式にも社会の流れが反映されている。子宮筋腫の症例では子宮摘出術が選択されることが多かったが、晩婚化のため、子宮温存を望む患者さんが増えている。昨年より多い29例に筋腫核出術を行った。

(文責 笹川 基)

6. 泌尿器科

悪性腫瘍に対する手術

副腎	
転移性副腎腫瘍 (腎癌1, 結腸癌1)	1
腎癌	
根治的腎摘除術	33
腎癌腎部分切除	14
試験開腹	
腎盂尿管癌	
腎尿管全摘除	23
膀胱癌	
膀胱全摘+回腸導管	8
膀胱全摘+回腸膀胱	1
TUR-BT	249
尿路変更 (尿管皮膚ろう)	
前立腺癌	
前立腺生検	332
前立腺全摘除	20
両側精巣摘除	25
精巣腫瘍	
高位精巣摘除	17
その他	
ソケイ部腫瘍	1
Wilms腫瘍再発	1

725

良性腫瘍に対する手術

後腹膜	
後腹膜腫瘍摘除・生検	1

TUR-P	6
<hr/>	
	7
腫瘍以外の手術	
腎	
経皮的腎ろう	19
尿管	
尿管カテーテル法 (留置含む)	63
他科尿管損傷 8例	4
尿管鏡	1
膀胱	
膀胱ろう造設	2
膀胱血腫除去	8
水圧拡張療法	2
膀胱鏡	1
尿道	
内尿道切開 4例	3
陰囊／精巣	
陰囊水腫手術 3例	2
精巣上体炎, 精巣摘除	2
陰囊膿瘍	1
イレウス解除	1
<hr/>	
	109
総計	841
延べ	811

2008年の手術は延べ811名, 841件の集計であった。2007年の近年最多件数ほどは多くないものの, 2005 (812), 2006 (830) 年と同等の件数となった。個々の検討を行なうと, 腎癌手術は2007年と同等, TURBTはさらに増加し, 249件となった。前立腺生検は例年並の332例の件数となった。昨年より悪性腫瘍診療へのさらなる特化が進み, TUR-Pなどの良性疾患の手術件数がさらに減少した。

(文責 若月俊二)

7. 皮膚科

悪性腫瘍	
<hr/>	
悪性黒色腫	31
基底細胞癌	65
有棘細胞癌	24
ボーエン病	28
日光角化症	15
外陰パジェット病	5
皮膚付属器癌	8
悪性軟部腫瘍	10

悪性リンパ腫	30
転移性皮膚癌	6
<hr/>	
小計	222
良性腫瘍・その他	
<hr/>	
母斑細胞母斑	78
表皮嚢腫 (粉瘤)	98
脂漏性角化症	35
脂肪腫	35
皮膚線維腫・軟線維腫	23
脂腺母斑・青色母斑	11
良性皮膚付属器腫瘍	10
血管腫	8
ケラトアカントーマ	9
石灰化上皮腫	17
化膿性肉芽腫	17
慢性膿皮症	6
神経線維腫	7
その他	47
<hr/>	
小計	401

昨年と比較して全体の手術件数は減少したが, 悪性腫瘍の件数は増加していた。

(文責 竹之内辰也)

8. 眼科

水晶体再健術	
1 眼内レンズを挿入する場合	177
2 眼内レンズを挿入しない場合	1
眼瞼下垂症手術	
1 眼瞼挙筋前転法	4
眼瞼結膜腫瘍手術	4
眼瞼皮下腫瘍摘出術 (露出部)	
1 長径2cm未満	1
眼瞼内反症手術	1
腱板切除術 (巨大霰粒腫摘出)	1
翼状片手術 (弁の移植を要するもの)	1
<hr/>	
合計	190

2008年度の手術件数は190件で, 2005年172件, 2006年164件, 2007年120件と過去3年間に比し増加した。水晶体再健術 (白内障手術) も178件であり, 2005年159件, 2006年148件, 2007年113件に比し増加した。今日, 白内障手術は日帰り手術として盛ん

に行われているが、当院の症例には入院治療が望ましい場合が多く、今後も入院手術の需要は減らないと思われる。(文責 大矢佳美)

9. 耳鼻咽喉科

生検	
硬性鏡下喉頭下咽頭腫瘍生検	23
頸部腫瘍生検 (リンパ節, 甲状腺)	25
小計	48
甲状腺・副甲状腺	
甲状腺良性腫瘍半切	16
甲状腺癌 (半切, D1郭清)	30
甲状腺癌 (半切, 側頸部郭清)	4
甲状腺癌 (全摘)	9
小計	59
頸部	
頸部郭清術のみ (原発操作に付属する頸部郭清)	14 (29)
小計	14
気管・喉頭	
気管切開	4
気管孔閉鎖	5
気管皮膚瘻孔閉鎖	1
喉頭皮膚瘻孔閉鎖	4
喉頭垂直部分切除	4
喉頭全摘	8
小計	26
口腔	
口腔良性腫瘍切除	6
口腔癌切除	2
舌部分切除	4
口腔癌切除, 顎二腹筋弁再建	2
口腔癌切除, 前腕皮弁再建	1
舌半切, 前腕皮弁再建	1
舌垂全摘, 腹直筋皮弁再建	1
小計	17

咽頭

咽頭皮膚瘻孔作成, 閉鎖	7
喉頭温存下咽頭部分切除 (空腸再建)	2
喉頭下咽頭全摘	1
小計	10
大唾液腺	
耳下腺良性腫瘍	3
顎下腺腫瘍切除	3
耳下腺癌切除	4
小計	10
その他	
プロボックスボイスプロテーゼ留置術	4
上顎全摘	1
上顎洞試験開放	1
DP皮弁作成, 切断	3
甲状軟骨形成術	2
喉頭挙上術	1
顎下部アテローマ	1
術後出血止血	2
小計	15
合計	199

手術総数はほぼ例年とおりであった。【甲状腺癌】Low risk症例の待機期間は2~3ヶ月と改善しなかった。High risk症例で手術に難渋するケースが多くなった。【機能温存手術】当科の特色である喉頭機能温存手術は、喉頭垂直部分切除が4人、喉頭温存下咽頭部分切除2人と従来の手術法では発声機能を失うはずであった6人の患者さんのQOLに貢献できた。また、発声機能再獲得のためのプロボックス手術を4人に施行、声帯を失っても術前と同様の声を取り戻している。総評：わずか2人のスタッフではあるが、今後も頭頸部癌患者さんの幸せのために努力していきたい。(文責 佐藤雄一郎)